

研究計画書

研究名 台風通過における気圧変化と耳症状について

研究対象：

2013年9月9日から2013年9月26日までに、小山田記念温泉病院、耳鼻咽喉科を受診した患者さんのうち耳症状を訴えられた方で、台風通過地域にお住まいの方を対象とします。

研究の概要：

文献的に、数日間に±10hPa以上の気圧変化が生じた場合には前庭・蝸牛症状（耳鳴り、めまい）の増悪が多く認められることが知られています。また、中耳腔内圧に及ぶ変化では、耳管通気能が低下している場合に耳閉感や耳充満感などの症状が生じる可能性があります。2013年9月13日から9月16日にかけて、台風18号が日本列島を縦断し、丁度連休中に東海地方を直撃しました。台風が通過した前後（2013年9月9日から2013年9月26日）の受診患者の症状と発症日、耳鏡鼻鏡所見、自覚的・他覚的検査結果（純音聴力検査、ティンパノグラム）を、発症前後の気圧変化（気象庁ホームページより引用）と比較し検討します。

研究の意義：

文献的には台風通過による前庭・蝸牛症状（耳鳴り、めまい）の出現は、自律神経失調症状の一症状とされています。2013年9月13日から16日に通過した台風18号は最低気圧が965hPaの大型台風でした。この前後の耳症状を検討することにより、耳症状の発症要因や台風通過との関連性についてさらに検討する意義は大きいと考えます。

目的：

台風通過における気圧変化と耳症状の関連を明らかにすることです。

方法：

本研究は2013年9月9日から2013年9月26日に小山田記念温泉病院耳鼻咽喉科で診察を受けた患者さんのうち耳症状を訴えられた方を対象とします。受診時の症状と発症日、耳鏡鼻鏡所見、自覚的・他覚的検査結果（純音聴力検査、ティンパノグラムなど）を、発症前後の気圧変化（気象庁ホームページより引用）と比較し検討します。耳症状の発症、持続と気圧変化を統計的に比較検討します。

個人情報保護に関する配慮：

本研究で対象となる患者さんの診療記録と検査結果は、本研究専用で別途割り当てられた研究登録番号を用いて管理しますので、いかなる個人情報も院外に出ることはありません。ご自身の受診経過や診療記録を使用してほしくない場合など本研究に対してお聞きになりたいことがありましたら、いつでも下記の連絡先まで申し出てください。

紹介先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒512-1111 四日市市山田町 5538-1

小山田記念温泉病院 耳鼻咽喉科

鈴木 恵理（研究事務局）

([Tel:059-328-1260](tel:059-328-1260) Fax:059-328-1921)